

## 第3章 将来環境像と将来イメージ

### 1 総合将来環境像 [計画のキャッチフレーズ]

「総合将来環境像」は、第1次計画策定時に、将来、美濃加茂市を「こんなまちにしたい」という平成34年度（令和4年度）を展望した総合的かつ長期的な環境像です。

市民、事業者、市の三者が連携し、「総合将来環境像」の実現に向けて「環境まちづくり」を推進します。

## 自然を友とし 環境を育み 未来に引き継ぐまち みのかも

#### 「自然を友とし」

身近な自然に親しみ、そのなかで楽しみながら暮らすことをいいます。

#### 「環境を育み」

まわりを見渡してみると、自然も街並みも、人がてをにかけていると安全で暮らしやすいと感じます。

#### 「未来に引き継ぐまち」

自然に親しみながら生きる暮らしの知恵を、まちぐるみで子どもたちに伝えていこうという意志を表しています。

### 2 将来環境像と将来イメージ

「将来環境像」は、平成34年度（令和4年度）を目標年度として、自然環境、生活環境、地球環境の3つの環境について、第1次計画で「市民が“こうしたい”」と思った将来イメージをまとめたものです。

第3次計画策定にあたり、目標年度を3年後に控え、その具体的なイメージに近づいているかを検証し、第1次計画のその後の国際情勢や社会動向を視野に入れた項目を追加して、現状での「将来イメージ」をまとめました。

また、第1次計画で「生活環境」の分野にあった資源やエネルギーに関する項目は、現在の国際情勢や国では地球温暖化対策の一環として位置づけられているため、「地球環境」の分野へ組み換えました。

検証結果として、将来イメージへの達成度を、100%に近い…○、50%程度…△、3年後の達成は難しい…× で表しています。

### ◆将来環境像①

#### 自然環境：自然と共生するまち

◇「自然とのつきあい」にかかわる将来イメージ	
・鳥のさえずりが聴け、自然の移り変わりを感じられる環境が息づいている	○
・大切にしたい動植物を守るボランティア市民がいる	○
・子ども達が、夏休みに、虫取りや昆虫観察を行う体験教室がある	○
・自然と親しめる遊歩道が整っている	○
・市内できれいに星が見られる所が残されている	○

◇「大地と緑」にかかわる将来イメージ	
・豊かな北部地区の自然が、保護・育成されている	△
・市民の手で、里山の手入れが行われている	△
・農地が保全され、農薬使用の少ない安全な農作物が供給されている	△
・米・野菜・果物が、自分の住む地域でまかなわれている	○
・豊かで多様な生きものを育む場所がある	○
・緑の多い街並みがある	△
・子どもたちが遊べる草原が近くにある	△
・まち全体が季節を感じさせ自然にとけ込んでいる	△

◇「水と水辺」にかかわる将来イメージ	
・河川には、多自然型の護岸で清らかな水辺がある	×
・緑の木立が並ぶ木陰のある川辺がある	○
・田んぼの用排水路に、様々な生きものが見られる	△
・まちなかの川で水遊びができる	△
・ネコギギ・ホタルなどの大切にしたい生きものの個体数が増えている	△

## ◆将来環境像②

## 生活環境：住みよい快適なまち

◇「総合環境配慮」にかかわる将来イメージ	
・廃棄物について皆が知り、ごみを減らすことを語り合っている	△
・製造者責任が徹底されて、購入した商品は、使用后、製造者へ返却されている	×
・市民と事業者によりフロン回収が徹底されている	○
・モラルが向上し、ごみ一つ落ちていないきれいなまちになっている	×
・市内には気軽に利用できる資源回収の拠点多く存在している 《追加》	○

◇「廃棄物」にかかわる将来イメージ	
・小売業者とタイアップして、レジ袋・トレイをやめ、量り売りをしている	×
・ごみの減量化に努め、生ごみなどをほとんど出さない	×
・フリーマーケットなどで再利用をすすめ、物を大事にしている	△
・意識しないでも、不用物はすべてリサイクルされている	△

## ◆将来環境像③

## 地球環境：環境配慮の息づくまち

◇「健康」にかかわる将来イメージ	
・深呼吸した時「おいしい」と言えるすみきった空気がある	△
・過大な環境負荷や公害がなくなっている	×
・市民が健康的に生活できる環境が保たれている	○

◇「都市空間」にかかわる将来イメージ	
・自然や潤いを感じることで、ゆとりのある公園がまちなかにある	○
・街角にちょっと休憩でき、おいしい水が飲める場所がある	△
・家族でゆったりと、自分達の住んでいる街を歩いて楽しめる	○
・あい愛バスなどの公共交通機関がゆきとどき、手軽に利用しやすくなっている	△

## ◇「資源・エネルギー」にかかわる将来イメージ

・資源・エネルギーについて皆が知り、語り合っている	○
・省エネに心がけ、電気・ガスなどの使用量が少なくなっている	△
・環境に配慮して、車の利用が少なくなっている	×
・燃料電池などが普及している	△
・太陽光、風力などの自然エネルギーを自分で取り入れている	△
・節水や雨水利用などで水資源を大切にしている	△

## ◆共通基盤的取組み

## ◇「共通基盤（環境教育）」にかかわる将来イメージ

・幼児から高齢者まで、成長過程に応じた環境教育が受けられる	○
・ほしい時に必要な環境情報が手に入る	△
・市民の主体的な環境活動が育っている	△
・行政の環境施策に多くの市民が意見を出し、一緒に取り組んでいる	△
・流域圏の市外の人々とも定期的に交流が図られている	△
・様々な国籍の人が環境講座に参加している 《追加》	×